

國學院大學學術情報リポジトリ

〔談話室〕 麗江マンゴの香り

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 黒澤, 直道, Kurosawa, Naomichi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000313

麗江マンゴーの香り

黒澤直道

フィールドでは、かつては思いもしなかったような変化が起こることがある。中国の雲南省麗江市に含まれる華坪県は、今ではマンゴーの一大産地に変貌した。二十年前、筆者が麗江に長期滞在していた頃は、マンゴーと言えば雨季の直前の五月頃、小ぶりのものがわずかに市場に出るだけであった。南国なのに果物の種類は少なく、多様な果物が溢れる雲南南部のフィールドが羨ましかった。しかし現在、夏の麗江では様々なマンゴーが次から次へと売られている。果物売りのおばさんの話では、現在、華坪県のマンゴーには三十以上の品種があるという。

標高二千メートルを超える高地である麗江市では、そもそもマンゴーの栽培はあまり行われていなかった。華坪県は、漢族、リス族、イ族の支系などが住む土地で、麗江市の中でも海拔がやや低く、気温は比較的高い。九十年代以降に本格化した当地のマンゴー栽培では多くの品種が導入され、それまで何の特徴もなかった華坪県を「マンゴーの郷」へと変貌させた。幸運だったのは、その地理的条件により、マンゴーの出荷時期が長いことである。華坪県は中国のマンゴー生産地としては最北端にあり、南方のマンゴーが出荷を終える頃から本格的に出荷を始め、十月に入ってもなお新鮮なマンゴーを供給できる。これにより華坪県のマンゴーは中国全土だけでなく、国外へも出荷されるようになり、現在、当地は雲南省最大のマンゴー生産県となった。

夏の麗江に滞在していると、リアカーの上に様々な果物を満載した果物売りを街のあちこちに見ることが出来る。マンゴーの品種では黄色く細長い「水仙」、細長いがそれより大ぶりの「紅象牙」、やや赤く丸い形の「萍果世」、さらに大きな「澳芒」などが入れ代わり立ち代わり登場する（これらの品種名は果物売りのおばさんによるもので、正式



カップと比べた“澳芒”

名称は異なるかもしれない)。澳芒は大きすぎて、一人で食べるとマンゴーだけで満腹である。

これらを産出する華坪県では、最盛期の九月になると「中国麗江華坪マンゴー文化祭」が開催される。マンゴーの頂点に君臨する「マンゴ大王」を選ぶコンテストでは、三キロを超える巨大なマンゴーが選ばれた。美人コンテストならぬ「美マンゴーコンテスト」もある。そして、一般人が参加するのはマンゴーの早食い競争である。全国的に活躍する有名歌手が歌う「芒果香（マンゴーの香り）」という歌は、華坪県のイメージソングともなっており、プロモーションビデオでは、マンゴーの郷を訪ねた歌手とリス族娘の切ない恋が描かれる。もはや、マンゴー抜きにして華坪県は語れない状況となっているのだ。

その一方で、この二〇年間、麗江市は嵐のような観光開発にさらされてきた。ユネスコの世界文化遺産に指定された麗江旧市街では、宿屋も飲食店も外地から来た商人が経営する店ばかりとなり、もともと住んでいたナシ族はほぼその姿を消した。かつての筆者の三年間の滞在で知り合ったナシ族の友人たちも、現在ではその全てが郊外の集合住宅に引っ越した。そのため最近では、筆者もナシ語の意味を確かめたりするために、そういったマンションに住む友人を訪ねることが多く、その度にテーブルの皿に盛られた果物をご馳走になり、お土産に巨大なマンゴーをもらう。麗江のホテルの部屋で、友人にもらった有り余るほどのマンゴーを一人で頬張っていると、かつてはあれほど羨ましかったこの南国のフルーツのために、いったい何が失われたのだと思うて、ふと切なくなるのである。

（中国民族研究、ナシ族言語文化研究）